

インターバンクの声（2015 年 6 月 4 日）

欧州中央銀行（ECB）理事会を前に、ロンドン市場の序盤でユーロは一旦 1.11 ドル台後半から 1.10 ドル台後半まで売られた。ドラギ総裁の理事会後の発言内容を警戒してのポジション調整による売りだったと思われるが、結局は会見での“ユーロ圏の景気回復の裾野が広がっていくことを見込んでいる”とした部分への反応や独国債利回りの大幅上昇から 1.12 ドル台後半まで再度の上昇となった。もっとも、政策については現状維持のままで、むしろ何かあれば追加措置を講じるとも述べ、一部に期待感すらあった出口政策への言及については、“議論すら行われていない”と明言しており、ユーロの上昇については前日同様ギリシャの債権団との早期合意期待も大きく影響したのかも知れない。さらに昨日の米経済指標も強弱まちまちの内容で、ユーロが再上昇していた場面では弱めの指標発表があったのも上昇幅を広げたかも知れない。ただ、この水準からは、明日の米雇用統計の結果が気になってしまうはずで、しばし小康状態になる時間帯が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。